

博士論文審査結果の要旨

博士論文審査委員会

主 査 君島 真仁

審査委員 小野 直樹

審査委員 高崎 明人

審査委員 野田 和彦

審査委員 篠原 正

*審査委員

氏 名	Arini Nuran Binti Zulkifili
論文題目	Alkali Metal Bismuthate and Bismuth Vanadate Microstructure for Visible Light Driven Photocatalytic Activity
〔論文審査の要旨〕 繊維産業においては染色工程で色素を含む排水が発生する。環境保全の観点から排水の浄化は重要な課題であり、その解決策の一つとして光触媒による浄化技術が実用化されている。申請者の博士論文は、効率的に排水中の色素を分解できる光触媒として、可視光に応答するアルカリ金属のビスマス酸塩とバナジン酸ビスマスを対象とし、それらの特性に関する基礎的研究の成果で構成されている。 この博士論文について、2017年11月6日10時より大宮キャンパス5号館5341教室にて審査委員5名により予備審査を実施した。予備審査では、論文の内容についての説明とそれについての質疑を行った。本文の構成について若干の見直しが必要であること、細かな修正点や加筆が必要な箇所の指摘があったが、いずれも大幅な修正を必要とするようなものではなかった。論文で取り上げているテーマと全体構成には大きな問題はなく、学位論文に相応しい内容であることを確認することができた。審査委員の評価は概ね高く、投票の結果、審査委員全員が一致して合格と認めることとなった。 審査委員からの指摘事項については、最終原稿を纏めるにあたって加筆・修正するよう申請者に指導を行った。その後、申請者により修正が施された論文原稿が提出されたので、それをもって最終審査を実施することとした。 最終審査は、2018年1月26日10時より大宮キャンパス5号館5341教室にて実施した。審査委員5名に加え5名程度の留学生の聴講者があった。修正された部分を含めて論文内容について説明してもらった上で質疑を行った。予備審査において指摘された点について十分な修正が行われ、博士論文として完成されていることを確認することができた。若干レイアウトが乱れている部分が指摘されたので、最終的な提出の前に必ず修正するよう指示した。 発表と質疑が終了した後、審査委員による合否判定の審議を行った。審査委員が記入した学位審査評価シートの評価点は、4つの評価項目「専門性」「広範な教養」「業績」「コミュニケーション能力」のすべてにおいて、地域環境システム専攻が定める採点基準を満たしており、学位審査合格と認められた。最終的に投票を行い、合格と判定した。以上の通り、申請者の博士論文の内容とこれまでの業績、研究者としての能力は、博士の学位に相応しいものと評価された。	